

健診項目のご案内

項目	説明
標準体重・BMI	体重(kg)÷身長(m) ² をBMI(Body Mass Index)といい、22が基準となり、身長(m) ² ×22が標準体重となります。±10%以内が適正といわれています。
尿糖	血液中の糖分が一定の値をこえると尿中に排泄されます。糖尿病を診断する第一歩となります。
尿蛋白	腎臓に障害があると陽性になります。正常でも激しい運動の後などに陽性になる事があります。
尿潜血	腎臓や尿管、膀胱など、尿の通り道からの出血の有無を調べる検査です。尿路系の異常発見の手がかりとなります。
尿ウロビリノーゲン	正常でも少量は尿中に存在し、肝臓や胆道系の障害を反映し、過度の飲酒や疲労でも増加します。
血圧	血圧は、環境や心理的その他の要因により常に変動しています。高血圧は、脳卒中、心臓病、腎臓病などをひきおこします。
心電図	心臓の筋肉からの微量の電流をみることにより、不整脈や心肥大など、心臓の異常を調べる手がかりとなります。
胸部X線	肺がんや肺炎、結核などの肺の病気や、心臓の異常などについての情報を得ることができます。
赤血球	赤血球は血液の中で酸素を運ぶ働きをし、減少すると貧血になります。栄養の取りすぎなどでも増加します。
血色素	赤血球の中の赤い色素(ヘモグロビン)の重さで、鉄分が不足すると減少します。
ヘマトクリット	血液中の赤血球の容積で、赤血球・血色素と合わせて、貧血の種類や程度を判定します。
白血球	白血球は、体内に侵入した細菌や異物を処理します。肺炎や虫垂炎など各種の感染症で増加します。
血小板	出血を止める際に重要な働きをします。血液の病気や慢性の肝疾患で減少します。
GOT	心筋、肝臓、骨格筋、腎臓などに存在する酵素で、肝障害や心筋梗塞などで高値となります。
GPT	肝臓、腎臓などに存在する酵素で、肝疾患を診断する指標となります。急性の肝疾患に特によく反応します。
γ-GTP	脂肪肝や、飲酒、薬剤による肝障害、胆道系の異常などで上昇します。特に飲酒によく反応します。
ALP	アルカリフォスファターゼの略で、肝臓から十二指腸に至る胆汁の流出経路(胆道系)の異常や、骨の異常などで上昇し、甲状腺異常でも変動します。
総コレステロール	コレステロールが増えると、動脈硬化や心筋梗塞の危険性が高くなります。肝臓病や栄養障害で低下します。
HDL-コレステロール	血管壁にたまった悪玉のLDL-コレステロールを肝臓に運び処理する善玉コレステロールで、動脈硬化を防ぐといわれています。

項目	説明
L D L - コレステロール	コレステロールの中でも特に動脈硬化に対して悪影響を与えるといわれる悪玉コレステロールです。
中性脂肪	中性脂肪は皮下脂肪の主な成分で、糖質、アルコールをとりすぎると中性脂肪が増え、動脈硬化の原因となります。
血糖	血中のブドウ糖（血糖）は食後上昇し、時間がたつと低下します。高値で糖尿病を疑います。なるべく空腹で調べてください。
クレアチニン	体内の老廃物の一種で、腎臓から排泄されます。腎炎や腎不全など腎機能の低下で上昇します。
e G F R	腎臓の老廃物を尿へ排泄する能力を示したもので、腎機能が悪くなると低い値となります。
尿酸	老廃物の一種で、通風では増加します。腎疾患などでも上昇し、過度の飲酒や肥満も尿酸値を上昇させます。
前立腺がん検査（PSA）	前立腺がんや各種前立腺疾患で高値になりことがあります。
卵巣がん検査（CA125）	子宮内膜症で上昇し治療判定に用いられますが、卵巣がんや卵巣のう腫、その他のがんでも上昇することがあります。
肝炎検査（B型・C型肝炎）	（HBs抗原）B型肝炎のウイルスに感染中であるかどうかを調べます。陽性の方は医師の指導を受けてください。
	（HCV抗体）C型肝炎ウイルスに過去に感染したかどうかの指標です。陽性の場合、現在も感染中の場合もありますので医師にご相談ください。
心臓機能マーカー検査（BNP）	BNPは、心臓の主に心室から分泌されるホルモンです。血液検査で血中濃度を測定することで、心不全の早期発見と重症度の把握に有用な検査です。
ヘモグロビンA1c	食事の影響を受けにくい糖尿病の指標です。1～2か月間の血糖の変動を反映し、糖尿病で上昇します。
ヘリコバクターピロリ菌	胃潰瘍や十二指腸潰瘍をくりかえしている方は、この細菌の影響かもしれません。この検査ではピロリ菌の存在の有無が確認できます。
眼底検査 ※6月は実施しません	目の奥の写真で体の中の血管が観察でき、目の病気だけでなく、高血圧、動脈硬化、糖尿病などの全身の病気の情報が得られます。
胃がん検診	胃潰瘍や胃がん、十二指腸潰瘍などの検査で、バリウムを飲んでX線写真を撮って調べますが最初から内視鏡を飲むこともあります。
大腸がん検診	便に含まれるヒトヘモグロビンの検査で、出血の有無を調べる便潜血反応です。大腸を始め消化管の病気への手がかりとします。

※ **太字**はご希望により追加が可能な検査項目です。ぜひこの機会にご受診ください。